

ドクターNAKAMURAの 健康道場



Vol.68
己を知り
己を律する

「己の限度を知り、分を弁えよ。ってところかな。」

御手洗透がまるでお経を唱えるがごとくすらすらと答えた。

「じゃ～ハンディキャップが大きい人は大損という事。そんな不公平があっただけいいの。」 姫が必死に抗う。

「そこがまた微妙で、心配しなくていい。神はあらゆる点において平等だよ。不思議なもので。生活習慣病や心血管病にアドバンテージがある人は癌においてハンディキャップがある。癌においてアドバンテージがある人は心血管病・生活習慣病においてハンディキャップがある。儉約遺伝子と言うものがあるれば、がん遺伝子と言うものもある。なかなか上手くできているもんだ。」 山部が相変わらずクールに相槌を打つ。

「癌遺伝子を持っている古川さんはタバコを吸っちゃあかんかったんやわ。本当はな。ニコチン依存症

かなんか知れへんけど、タバコを吸っちゃ～あかんかったて事よ。そっとしておけば、静かに寝ていてくれる遺伝子をたたき起こしてしも～た。癌遺伝子に夜這いをかけるようなもんや。向こうかてその気にさせられたら、もう止まりまへんがな。後は行くところまで行くがな。気がついたら進行癌や。」

「確かに分かるような気がする。ダイエット中の私を、ケーキバイキングに連れ出しといて、痩せんといかんからこれくらいにしとき言うて、一口サイズのミニケーキ1個だけで我慢させられるようなもんじゃね。そんなん、誰が黙っとるん。火吹きまくるで。て言うか、暴れまわってテーブルをなぎ倒しているわ。」

「だろ。もし姫が少々太っていたとしても、儉約遺伝子や生活習慣病惹起遺伝子を持っていないければ、好きなだけ食べられる。古川さんと同じ事だわ。癌になるか脳梗塞になるか、標的臓器が違うだけなんだわ。」

「山部さん、じゃ～どうすればいいんですか？」

「理性が勝つか、本能が勝つかってところかな。取り敢えずは何の為に生きているのかを考えることだね。」

そよかぜ 循環器内科・糖尿病内科
(県立中央病院 前)

院長 中村陽一